

## 大阪市立新庄小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

本校は、現在 16 学級(内特別支援学級 5 学級)児童数 278 名、教職員は 44 名の中規模校である。東淀川区のほぼ中心に位置し、阪急上新庄駅と隣接しており交通の便のよい地域である。

校区には古くからの街並みと新しくできたマンションが混在し、ここ数年は児童数が減少傾向にある。地域住民の学校に対する思いは熱く強く、学校とともに取り組む行事は多い。地域の祭りや見守り隊の活動などを通し、町ぐるみで子どもを育てていくといった文化が受け継がれている。

**知**：学習意欲や学力では、ともに二極化傾向が見られる。学力の底上げを図り二極化の解消をすることが課題である。また授業の中で、自分の意見をはつきり言うことや友だちと話し合う中で自分の意見をまとめるなどの取り組みにも課題がある。昨年度から算数科の学習活動を軸に研究を進め、自ら学ぶ子どもの育成に取り組んでいる。学年末に漢字能力検定を全校で受検するという目標をもち、毎年漢字学習にも取り組んでいる。

**徳**：自己肯定感や自尊感情が低い傾向がある。個性を認め合う「いいとこみつけ」やたてわり班(異年齢集団)活動などでの活動を通して、仲間づくりを推進するとともに豊かな心の育成に努めている。

**体**：運動場が狭いということもあり、健康・体力の面で課題がある。期間を決めてなわとび週間などを実施し、児童が自己の健康の保持増進と積極的な体力づくりに取り組んだり、第 2 運動場でかけ足運動などの体力づくりを工夫したりする必要がある。

**【課題】**

◇学力の向上に向けて、児童の学習意欲を維持向上させるための仕掛けづくり(家庭学習習慣の定着や I C T の活用など)を行う必要がある。

◇あいさつができる・仲間を思いやる・自尊感情を高めるなど「心の教育」を推進する必要がある。

◇児童が運動に親しめる機会や環境づくりを進める必要がある。

**中期目標****【安全・安心な教育の推進】****全市共通目標（小・中学校）**

○令和 7 年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 75 %以上にする。

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を毎年、前年度より減少させる。

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を毎年増加させる。

**学校園の年度目標**

○年度当初と年度末に実施する校内調査において、「校内で自分からすすんであいさつができますか」の項目に肯定的に答える児童の割合を毎年高い水準に保つ。

## 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

### 全市共通目標（小・中学校）

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を38%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.04ポイント向上させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を60%以上にする。

### 学校園の年度目標

- 小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外にふだん1日あたりどれくらいの時間、勉強していますか」の項目について、「30分以下もしくは全くしない」と答える児童の割合を毎年前年度より減少させる。

## 【学びを支える教育環境の充実】

### 全市共通目標（小・中学校）

- 令和7年度には、週2日以上朝学習などにICT機器を取り入れるなど、ICT機器を効果的に活用した学びの教育実践に取り組む。
- 令和7年度には、ゆとりの日を週に1回以上設定するなど、教職員の働き方改革を行い、労働状況を改善し、より効率的な働き方をめざす。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

#### 学校園の年度目標

- 年度当初と年度末に実施する校内調査において、「校内で自分からすすんでいさつがでていますか」の項目に肯定的に答える児童の割合を高い水準に保つ。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を49%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を69%以上にする。

#### **学校園の年度目標**

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外にふだん1日あたりどれくらいの時間、勉強していますか」の項目について、「30分以下もしくは全くしない」と答える児童の割合を前年度より減少させる。

#### **【学びを支える教育環境の充実】**

##### **全市共通目標（小・中学校）**

- デジタル教材（navima）を活用した朝学習を毎週火曜日に実施する。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を70%以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

## 大阪市立新庄小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	
年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p><b>全市共通目標(小・学校)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85 % 以上にする。 (令和 4 年度 82.1% ⇒ 令和 5 年度 84.3% ⇒ 令和 6 年度 83.6%)</li> <li>・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 (令和 4 年度 2.27% ⇒ 令和 5 年度 2.71% ⇒ 令和 6 年度 2.03%)</li> <li>・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</li> </ul> <p><b>学校の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初と年度末に実施する校内調査において、「校内で自分からすすんでありますか」の項目に肯定的に答える児童の割合を高い水準に保つ。 (令和 4 年度当初 86.0% ⇒ 年度末 88.3%) (令和 5 年度当初 85.7% ⇒ 年度末 87.4%) (令和 6 年度当初 87.1% ⇒ 年度末 87.8%)</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<b>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</b> 定期的にアンケート等を実施して、いじめや問題行動の早期発見に努める。また、月に1回の生活指導部会や職員会議等で、いじめや問題行動、不登校など、児童の様子について教職員間で交流し、共通理解をはかる。ケースによっては、スクールカウンセラーやこども相談センター等とも連携していく。	
<b>指標</b> 令和7年度末の校内調査を指標とし、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にし、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 (令和4年度 いじめの解消した割合：100%、不登校：2.27%) (令和5年度 いじめの解消した割合：95.4%、不登校：2.71%) (令和6年度 いじめの解消した割合：95.6%、不登校：2.03%)	
<b>取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</b> 児童朝会での講話や学級指導を行い、児童が学校のきまりや社会のルールを守ろうとする態度を身につけられるようにする。また、教職員が研修でソーシャルスキルや情報モラルを学び、学級・学年での実践に生かす。	
<b>指標</b> 校内調査の「きまりを守ろうとしていますか」の項目について、肯定的に入っている児童の割合を前年度に続き高い水準に保つ。 (令和4年度 97.6% 令和5年度 98% 令和6年度 96.8%)	
<b>取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</b> 児童会を中心に「あいさつ週間」を年2回実施し、校内で出会う人や地域の人に対するあいさつができるようにする。	
<b>指標</b> 年度当初と年度末に実施する校内調査において、「校内で自分からすすんであいさつができるていますか」の項目に肯定的に答える児童の割合を前年度に続き高い水準に保つ。 (令和4年度当初 86.0%⇒年度末 88.3%) (令和5年度当初 85.7%⇒年度末 87.4%) (令和6年度当初 87.1%⇒年度末 87.8%)	
令和7年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
後期への改善点	

## 大阪市立新庄小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標	達成状況		
<p><b>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標(小学校)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 42 %以上にする。 (令和 4 年度 48.6% ⇒ 令和 5 年度 40.2% ⇒ 令和 6 年度 43.9%)</li> <li>・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。 (国語 R4⇒R5 4 年 1.01 ⇒ 1.05 5 年 0.98 ⇒ 1.08 6 年 1.07 ⇒ 0.93) (算数 R4⇒R5 4 年 1.03 ⇒ 0.94 5 年 0.94 ⇒ 1.02 6 年 0.99 ⇒ 0.98) (国語 R5⇒R6 4 年 0.97 ⇒ 0.97 5 年 1.05 ⇒ 1.05 6 年 1.08 ⇒ 1.11) (算数 R5⇒R6 4 年 1.00 ⇒ 1.01 5 年 0.94 ⇒ 1.13 6 年 1.02 ⇒ 1.00)</li> <li>・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85 %以上にする。 (令和 6 年度 85.4%)</li> <li>・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77 %以上にする。 (令和 4 年度 67.0% ⇒ 令和 5 年度 75.1% ⇒ 令和 6 年度 82.7%)</li> <li>・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 69 %以上にする。 (令和 4 年度 68.9% ⇒ 令和 5 年度 68.5% ⇒ 令和 6 年度 63.7%)</li> </ul> <p><b>学校の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 7 年度の小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外にふだん 1 日あたりどれくらいの時間、勉強していますか」の項目について、「30 分以下もしくは全くしない」と答える児童の割合を前年度より減少させる。 (令和 4 年度 20.9% ⇒ 令和 5 年度 17.5% ⇒ 令和 6 年度 20.1%)</li> </ul>			

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<b>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b> 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を取り入れた授業に取り組み、学力向上をめざす。	
<b>指標</b> 令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 (国語 R4⇒R5 4年 1.01⇒1.05 5年 0.98⇒1.08 6年 1.07⇒0.93) (算数 R4⇒R5 4年 1.03⇒0.94 5年 0.94⇒1.02 6年 0.99⇒0.98) (国語 R5⇒R6 4年 0.97⇒0.97 5年 1.05⇒1.05 6年 1.08⇒1.11) (算数 R5⇒R6 4年 1.00⇒1.01 5年 0.94⇒1.13 6年 1.02⇒1.00)	
<b>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</b> これまで取り組んできた「新庄っ子体操」を継続する。また、全校あげての体力づくりや、児童の考えたアイデア等、委員会活動による呼びかけを行い、児童が自主的に取り組める活動を工夫する。	
<b>指標</b> 全国体力・運動能力、運動習慣等調査で、特に課題であるシャトルランの調査を3～6年生は3学期に再度実施し、1学期の平均ポイントよりも、4.5ポイント向上させる。 (令和6年度1学期：34.0 ⇒ 3学期：43.3 9.3 ポイント向上)	
<b>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b> 家庭学習週間を設定し、全学年で、学年に応じた家庭学習と自学自習の習慣化に取り組む。その際、保護者PTAや進学先中学校とも組織的に連携する。	
<b>指標</b> 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外にふだん1日あたりどれくらいの時間、勉強していますか」の項目について、「30分以下もしくは全くしない」と答える児童の割合を前年度より減少させる。 (令和4年度 20.9% ⇒ 令和5年度 17.5% ⇒ 令和6年度 20.1%)	
令和7年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
後期への改善点	

## 大阪市立新庄小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標	達成状況		
<b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b>			
<b>全市共通目標(小学校)</b>			
<p>○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50 %以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）</p> <p>○ゆとりの日を週に 1 回実施する。 学校閉庁日（夏季休業中 4 日・冬季休業中 2 日）を設ける。</p>			
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況		
取組内容①【基本的な方向 6、教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ICT 機器（一人一台端末）を効果的に活用した学びの教育実践に取り組む。			
指標  デジタル教材（navima）を活用した朝学習を毎週火曜日に実施したり、スクールライフノートの機能を活用したりして、端末を毎日使用していると答える児童の割合を 80 %以上にする。			
取組内容②【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教職員の働き方改革を行い、労働状況を改善し、より効率的な働き方をめざし、時間外勤務を減少させる。			
指標  時間外勤務の 45 時間をこえない割合を 70 %以上にする。			
令和 7 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析			
後期への改善点			